

第5回県立あすなろの郷検討委員会の議事概要

- 日 時 平成29年5月29日（月）13:00～14:40
- 会 場 あすなろの郷管理棟研修室
- 出席者 委員8名（欠席2名），事務局，社会福祉事業団
- 結 果

1 各施設・機能の内容と規模について

今後20年間の全体傾向に基づき段階的な整備を行うこと、及びあすなろの郷の定員については、地域移行促進センター（仮）設置まで暫定定員として据え置くことで、概ね了承が得られた。

2 建て替え後の施設の運営主体等について

概ね事業団が担うことで了承が得られた。なお、高齢化棟については、事業団とともに専門性の高い民間事業者の活用も図っていく。

3 連携体制・支援方策等について

地域移行等を促進するための地域の受け皿整備への支援や、民間・在宅等の連携体制について、別途「（仮）民間連携体制検討会」を設け検討していく。

4 土地活用方策について

埋蔵文化財包蔵地であることを鑑みた上で、地域との交流を進める土地活用にすべきとの意見が出された。

○ 報 告

（1）前回までの検討内容について

前回までの検討内容については、報告資料のとおり概ね了承された。ただし、連携体制図について、「医療・重心」も在宅障害者の支援に関わることがわかるような表現に修正する。

（2）地域移行促進チーム及び地域移行促進学習会について

地域移行促進チーム（若手座談会）の開催結果と地域移行促進学習会の開催（6月23日実施）について報告された。

○ 議 事

（1）各施設・機能の内容と規模について

・高齢化棟での高齢障害者向けの取り組みは、国の共生社会の流れでもあり期待している。ユニット型の場合、人員配置を手厚くする必要があるので、引き続き人材確保に取り組んでほしい。

・地域移行について理念は納得しているが、グループホームの人員体制が安心できるか、経済的に障害年金の中で対応できるか、入所経験の長い高齢者は対応できるか、という懸念がある。

・想定定員について、急激に縮小するのではなく、段階的に規模を縮小し、また定期的に見直していく点は評価が高い。地域移行促進センター（仮）ができるまでの5年ぐらいは、暫定定員で現状を維持している点もよい。

- ・入所者は50歳を超えると亡くなる方が多いのが実情。死亡や転院といった自然減が、シミュレーションよりも増えていくことも考えられる。
- ・国の制度や計画も変わっていくので、3～5年ごとに見直しをかけていくことが大切。

（２）建て替え後の施設の運営主体等について

- ・あすなろの郷の運営主体は事業団でよいが、本人の意思決定支援など地域移行等に関する職員の意識を変えていく必要がある。
- ・H30の厚労省の介護と障害の一体化については、在宅者についての審議は進んでいるが、入所については未定であるので留意する必要がある。
- ・人材育成については今後の課題である。事業団は人材バンクや退職者の活用など有効な人材の活用を検討していくべき。
- ・若手座談会の結果を見ると、今後のあすなろの郷を検討していくことで職員のモチベーションが上がっていると思われる。

（３）連携体制・支援方策等について

- ・入所待機者について、現状では登録だけしている人が多く、空きが出ても待機者を繰り上げて入れたり、首都圏からの入所希望者を受け入れている施設もある。オール茨城で取り組む場合には、こういったデータを整理していく必要がある。
- ・（仮）民間連携体制検討会には、特別支援学校卒業生など在宅障害者の実情がわかる関係者（社協、特別支援学校など）にも係わってほしい。
- ・在宅障害者や地域生活移行者が安心できるよう地域生活基盤整備を進めていく必要がある。
- ・県内のグループホームでは、B型事業所など就労系の方向けの施設や入所からの地域移行者向けの施設など色々な種類がある。一律に支援を行うことは意味がない。
- ・長野や大阪の府県立入所施設からのグループホームの受け入れ加算制度導入について、府県の施策誘導がうまくいったのか確認しておく必要がある。

（４）土地活用方策について

- ・障害者スポーツ団体からの要望でもあるが、共有できるグラウンドがあるとよい。
- ・埋蔵文化財包蔵地であり、土地活用に制約があることを、家族会にもしっかりと伝えていく必要がある。
- ・埋蔵文化財が見つかった場合、記録保存の発掘調査などの期間が必要となる。

（５）その他

- ・あすなろの郷だけの話ではないが、福祉に関する人材の確保育成が喫緊の課題である。福祉人材を幅広く集めていくことや定着支援についても進めてもらいたい。

○今後の進め方等

- ・さらに、意見等があれば事務局に提出してもらいたい。
- ・今までの検討結果を踏まえ、報告書案の作成について随時進めていきたい。9月には一定の結論を出していきたい。